

3 施設整備方針

3.1 整備方針

新総合体育館の整備方針について、昨年度実施したスポーツ団体へのヒアリングや市民ワークショップの結果を踏まえ、コンセプトを具現化するために求められる施設機能として、以下の通り「総合体育館として持つべき体育機能」と「新たに求められる多様な機能」の両面から整理しました。

【総合体育館として持つべき体育機能】

- スポーツの活動拠点として、半田祭や広域利用をはじめとした大規模なスポーツイベントの開催が可能な機能、諸室、設備を確保します。
- 大規模なイベント開催時においても利用者が快適に利用できるように駐車場を確保します。
- 年齢や性別、障がいの有無に関わらず誰もが快適に使用できるように、設計、設備、サインなどの各分野でユニバーサルデザインを確保します。
- 非常時の避難場所になる可能性もあることから、備蓄倉庫の整備や大地震動に強い建物構造とするなど、求められる役割に応じた防災機能を確保します。
- 大規模な公共施設が担う役割として、省エネ、再生可能エネルギーの導入など環境配慮型設備機能を確保します。
- スポーツ活動の拠点機能の向上や利用者の利便性、快適性の観点から市内にあるスポーツ施設の移設による集約化も想定します。

【新たに求められる多様な機能】

- スポーツを通じて賑わいと交流の創出が図れるよう交流スペースなどの交流機能を導入します。
- 子育て世帯も安心してスポーツに親しめるようキッズスペースなどの子育て支援機能を導入します。
- 運動・スポーツが市民・利用者の健康増進やケガ、病気からの快復に寄与できるよう健康増進・リハビリ機能を導入します。
- 文化芸術活動などの多様な活動を支えるため、利用者・運営者の創意工夫により柔軟な活用を生み出す機能を導入します。
- 市民・利用者にとって有益な情報の発信ができる情報発信機能を導入します。

3.2 導入機能と必要諸室等

(1)半田運動公園内にある施設機能の整理

新総合体育館の建設場所が半田運動公園敷地内であることから、半田運動公園の機能と新総合体育館の機能の重複を避けるため、半田運動公園内の施設機能・規模を以下の通り整理しました。

〈半田運動公園 施設・機能一覧〉

分類	施設名	施設概要
運動施設	陸上競技場	第3種陸上競技場（400mトラック（9レーン）ほか）、トイレ 芝生フィールド（106m×69.5m）、観客席（3,060席 車いす14席）
	多目的グラウンド	グラウンド（127m×144m）、トイレ、更衣室、放送設備
	トレーニングルーム	各種トレーニング機器、体重計、体組成計、血圧計
	テニスコート	砂入り人工芝コート（8面）、練習用コート（2面）、観客席（1,000席） クラブハウス（更衣室、ロッカー、シャワー、休憩室）
	バスケットボールコーナー	ハーフコート（3面）、フリースローゲーム（1面）
	スケートボードコーナー	スケートセクション（複数）
	ジョギングコース	ジョギングコース（4種類）（0.6km、0.7km、0.8km、2km）
子ども向け施設・広場等	ちびっこ広場	大型複合遊具、小型複合遊具、滑り台、幼児向けエリアなど
	デイキャンプ場	バーベキュー卓（33卓）、持込区画（7区画）、屋内炊事場、広場 管理棟（管理室、授乳室、トイレ等、休憩室）
	つるりんモンスター （複合遊具）	大型複合遊具、小型複合遊具、ちやぷちやぷ池、広場
	野外ステージ	野外ステージ（450㎡）、スポットライト（8灯）、照明灯（21灯）
	広場等	芝生広場、ふれあい広場、くつろぎ広場、花の木園、さつき園
	大池古窯	穴窯の見学施設、休憩所
その他	管理事務所（陸上競技場）	管理事務所、会議室、ロッカー、更衣室、シャワー、トイレ 授乳室、等
	駐車場	第1～第4駐車場（一般用700台・身障者用23台・バス用7台）
	駐輪場	園内8か所（合計約450台）

〈半田運動公園 案内図〉



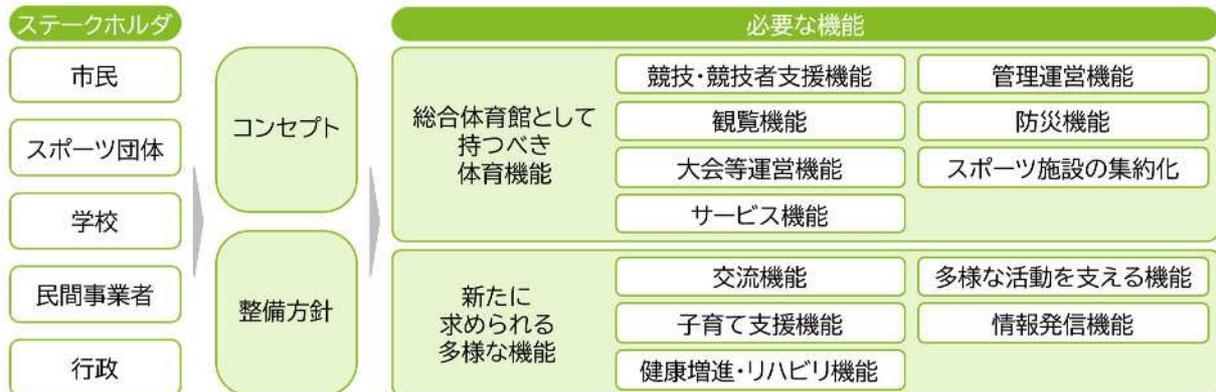
出所：半田びよログスポーツパーク ホームページ「公園案内図」

(2)新総合体育館への導入機能と必要諸室等の整理

コンセプト等を踏まえ、新総合体育館への必要な機能・諸室等を一覧表の通り設定します。

なお、導入機能・必要諸室等の設定においては、官民連携及びパークマネジメントの考え方にに基づき、市民・スポーツ団体・学校・民間事業者・行政をステークホルダとして想定し、各ステークホルダの視点から求められる機能、必要な諸室等を検討しました。ステークホルダと必要な機能の関係性は以下の図に示す通りです。

〈関連図〉



〈必要な機能・諸室等 一覧表〉

整備方針・機能		諸室等	規模	備考
総合体育館として持つべき体育機能	競技・ 競技者支援 機能	メインアリーナ	約 2,700 m ²	バスケットボールコート 3 面分
		サブアリーナ	約 700 m ²	バスケットボールコート 1 面分
		器具庫・可動式観覧席収納庫	約 600 m ²	各種器具や可動席観客席等を格納
		搬入出口・搬入路	適宜	荷捌き場からアリーナ等への搬入出口・搬入路
		ランニングコース	約 800 m ²	観覧席を周回する形で設置 (有効幅 2m を想定)
		更衣室・選手控室・シャワー室	約 320 m ²	
		医務室	約 20 m ²	
	観覧機能	観覧席	約 660 m ²	固定式 900 席 (車椅子席含む) 可動式 500 席程度
	大会等運営機能	会議室・事務局室	約 200 m ²	大会等開催時のスタッフや審判の控室としても活用
		放送室		
	サービス機能	ロビー・エントランス	約 750 m ²	
		トイレ	約 300 m ²	パウダーコーナーを適宜設置
		多機能トイレ		
		ロッカー	約 30 m ²	
	管理運営機能	事務室・受付・会議室	約 120 m ²	メインエントランス付近に設置
		運営関連諸室	約 50 m ²	監視室・警備室・応接室等
		倉庫	約 120 m ²	運営用の倉庫
		設備・機械室	約 140 m ²	
		階段、廊下、エレベーター等	適宜	
	防災機能	備蓄倉庫	約 100 m ²	
	スポーツ施設の集約化	弓道場	約 270 m ²	近的 (矢射道 28m) 6 人立

整備方針・機能		規模	備考
新たに求められる多様な機能	交流機能	適宜	コミュニティスペース など
	子育て支援機能	約 440 m ²	授乳室、キッズスペース など
	健康増進・リハビリ機能		トレーニングルーム リハビリテーションルーム など
	多様な活動を支える機能		多目的室 など
	情報発信機能	適宜	情報発信スペース など
延床面積		約 9,000 m ²	※面積を適宜としている箇所も含む

3.3 必要諸室等の設置方針

各種導入機能と必要諸室等の設置方針を以下の通り設定します。

(1) 総合体育館として持つべき体育機能

スポーツイベントに対応できるアリーナや観客席など、基本的な体育諸室の設置について

① 競技・競技者支援機能

メインアリーナ・サブアリーナ

- メインアリーナ及びサブアリーナは、主にスポーツ競技大会をはじめとする各種イベントの会場として使用されるほか、一般利用としても開放し、誰もが安心してスポーツに親しめる施設とします。
- メインアリーナの規模は、市主催のスポーツ大会（半田祭）の開催を想定し、バスケットボールコート3面を基本とする約2,700㎡とします。
- サブアリーナの規模は、小規模な大会の会場あるいは大規模な大会開催時の第2会場やウォーミングアップ会場として使用することを想定し、バスケットボールコート1面を基本とする約700㎡とします。
- 想定する主な競技のコート規格及びコート数は、国民スポーツ大会の競技施設基準を踏まえ、以下の通り設定します。
 - ・ 天井の高さは、想定する主な競技のうち、最も高い天井が要求されるバドミントンの施設基準に基づき、コート面より12m以上とします。
 - ・ バスケットゴールは、メインアリーナは移動式、サブアリーナは壁面固定式を想定し、利用者が安全に設営できるよう配慮します。
 - ・ 床材は、バスケットゴールなど各種機材の搬入出に耐えられるよう耐久性に配慮します。
 - ・ 壁面は、強固な壁や防護ネットを設けるなど、多様な競技の利用ができるよう配慮します。
 - ・ 熱中症対策など利用者の安全を考慮し、空調の風の影響を受けやすいバドミントンなどの競技にも配慮した空調設備を設置します。
 - ・ 各種スポーツ競技大会などに対応することを前提に、運営本部の設置場所や放送設備、外部からの搬入路などにも配慮します。

〈想定する主な競技及びコート規格等一覧〉

競技名	コートの大きさ	コート間隔	コート周辺	確保可能なコート数	
				メイン	サブ
バスケットボール	28m×15m	7m以上	2m以上	3面	1面
バレーボール	18m×9m	6m以上	3m以上	3面	1面
ハンドボール	40m×20m	2m以上	2m以上	2面	－
バドミントン	13.4m×6.1m	2m以上	2m以上	14面	3面
卓球	1.525m×2.74m	－	14m×7m	24面	6面
カローリング	3m×13m	0.6m	3m以上	30面	7面

出所：国民スポーツ大会 第78回大会「SAGA2024競技施設基準」及びスポーツ団体へのヒアリングより作成

器具庫・可動式観覧席収納庫

- 器具庫は、各種競技に使用する運動用具や各種イベントで使用する備品を機能的に収納できる規模及び間口を確保します。
- メインアリーナ及びサブアリーナそれぞれに隣接した器具庫を配置し、利用者が安全かつ効率的に器具の出し入れができるよう動線に配慮します。
- メインアリーナに隣接した器具庫には、可動式観覧席を収納するためのスペースを確保します。

搬入出口・搬入路

- 搬入出口・搬入路は、各種イベント開催時に機材や物品等の効率的な搬入出、設営撤収ができるように配慮し、十分な広さを確保します。
- また、各種イベント開催時や準備時の混雑緩和のため、利用者が使用する出入口とは別に搬入出口を設け、複数の動線を確保します。

ランニングコース

- 大会開催時などには競技者が室内でウォームアップができるよう、ランニングができる周回コースをメインアリーナ上部に設けます。
- コース幅は二人が同時に走行できる幅（有効幅2m程度を想定）を確保し、怪我や故障を防止するために床材やコースの視認性に配慮します。

更衣室・選手控室・シャワー室

- 更衣室・選手控室・シャワー室は、メインアリーナやサブアリーナ、トレーニングルーム等の規模や位置関係を考慮し、適正な規模、数を整備します。
- 更衣室にはロッカーや洗面台を設置し、誰もが快適にスポーツを楽しめるよう配慮します。
- 車いす利用者や障がいのある方、高齢者、乳幼児連れの方などにも配慮し、誰もが使いやすい、明るく清潔感のある室内とします。

医務室

- 緊急時の簡易な応急処置が行えるよう医務室を設置します。なお、医療関係者の常駐は行わないものとします。

② 観覧機能

観覧席

- 観覧席は、固定式と可動式を合わせて1,400席程度（固定式900席、可動式：500席）確保し、落下防止柵を設けるなど安全性へ配慮します。
- 車椅子用観覧席は、10席程度確保し、席の出入りや観覧がスムーズに行えるように配慮します。

③ 大会等運営機能

会議室・事務局室

- 大会事務局室は、スポーツ競技大会等の開催時にスムーズな大会運営が行えるように、メインアリーナを見渡せる場所に設置します。
- デスクや椅子、放送機器など運営に必要な物品を保管でき、必要に応じてスムーズに使用できるよう広さや動線を工夫します。
- 会議室は、会議や控室、休養室など、様々な用途で利用できるように、十分な広さを確保するとともに、パーティション等で部屋を区切ること、柔軟に利用方法を工夫できる施設とします。

放送室

- 放送室は、大会事務局室に直結する場所に設置し、円滑な大会運営ができるよう配置します。
- 様々な利用を想定し、全館及び諸室単位での放送を可能とします。

④ サービス機能

ロビー・エントランス

- ロビー・エントランスホールは、人々が集い、くつろぎながら交流できる空間として開放的でゆとりのある施設とします。
- 大規模イベント開催時において、選手や利用者の集合場所等にも利用でき、安全で効率的な入退場ができるよう広さや動線について工夫します。
- 可動式のパーティションや机、椅子などを設置し、必要に応じて会議室やブースのように使えるなど、柔軟な活用ができる空間とします。

トイレ・多機能トイレ

- トイレ・多機能トイレは、メインアリーナやサブアリーナ、トレーニングルーム等の規模や位置関係を考慮し、適正な規模、数を整備します。
- 車いす利用者や障がいのある方、高齢者、乳幼児連れの方などにも配慮し、誰もが使いやすく、明るく清潔感のある室内とします。
- パウダーコーナーは各トイレに適宜配置します。

ロッカー

- ロッカーは、各アリーナ付近に配置し、施設利用者が快適に使用できるよう配慮します。

⑤ 管理運営機能

事務室・受付・会議室

- 事務室・受付は、利用者動線と管理動線に配慮し、ロビー・エントランス付近に設けます。
- 施設の管理運営者が運営形態に合わせて使いやすく工夫できるよう柔軟性のある仕様とし、給湯室や休憩スペースを設けるなど働きやすい空間とします。

運営関係諸室

- 監視室や警備室は、事務室・受付に近接する場所に配置します。
- 応接室は、事務室に近接する場所に配置します。
- 従業員用更衣室・ロッカーは、事務室に近接する場所に配置します。

倉庫

- 倉庫は、事務室に近接して配置し、利用形態に応じて効率的に収納できるよう、十分な面積を確保します。

設備・機械室

- 設備・機械室は、維持管理がしやすいように事務室と近接する場所に設置します。

⑥ 防災機能

備蓄倉庫

- 非常用食糧・飲料水、生活必需品など、災害発生時に利用者が一時避難所として利用するために必要となる資機材等を十分に備蓄できるスペースを確保します。

⑦ スポーツ施設の集約化

弓道場

- 近的(矢射道 28m)6 人立競技可能な規模を確保し、大会運営委員席等のスペースも確保します。

(2) 新たに求められる多様な機能

多様なニーズに対応するため、固定の諸室ではなく運用や空間の柔軟性で変化に対応する導入機能について

① 交流機能

- エントランスやオープンスペースに自動販売機や机、椅子などを含むコミュニティスペースを設け、選手や利用者だけでなく、市民が気軽に訪れ交流する場を確保します。
- オープンスペースでは、キッチンカーなどの利用可能な施設とします。

② 子育て支援機能

- 幼児が安全かつ自由に身体を動かし、スポーツや運動を楽しむことができる、多目的かつ柔軟な活用が可能な空間を確保します。
- 幼児をもつ保護者のスポーツ活動を支援するため、保護者がスポーツを楽しみながらも、幼児を見守ることのできる機能の導入を検討し、保護者同士の交流の場としても活用できる施設を目指します。
- 授乳室は、上記のような子育て支援機能に近接する場所に設置します。
- 子育て支援機能については、時代に応じて変化・多様化する利用者ニーズに適宜対応していくことを前提とし、キッズスペースとしての活用も含め、将来的な用途変更にも対応できる施設とします。

③ 健康増進・リハビリ機能

- 利用者の健康、体力の保持増進を目的とし、トレーニング機器の設置やストレッチ運動が可能なスペースを設けます。
- 誰もが使いやすく、明るく開放的な施設とします。
- 軽いトレーニングやストレッチなどの、怪我や病気の回復を促すためのリハビリテーションスポーツが実施できる施設を整備します。

④ 多様な活動を支える機能

- 多目的室は、フィットネスやヨガ、卓球等にも使用できるように十分な広さを確保するとともに、パーティション等で部屋を区切ることで、柔軟に利用方法を工夫できる施設とします。
- また、ダンスなどに使用できるように音響設備、防音設備、大型姿見など必要な設備を設置します。

⑤ 情報発信機能

- 施設の管理運営者からスポーツや健康に関する情報、施設の利用状況、イベントのお知らせ等の情報を発信できる情報発信スペースを設置します。
- また、施設の利用者からの情報発信も可能にするなど、スポーツを通して交流やつながりが生まれるような工夫を取り入れます。